

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
1	H30.5	魅力	第1回 学習会	-	地活協のPR	地域を担当する職員のeラーニングの内容について、例えば「地活協って何?」ということなどを、クイズを待合で流したりすることにより地活協のPRに活用できるのではないかと。	地域活動協議会のPRについては、題材について検討するとともに庁内スペースの活用と手法に工夫をしたい。	①	1-1-1
	H30.7	魅力	第2回 部会	新庄委員		まず、地活協について知ってもらい、地域活動とはどんなものかというものを見えるようにしていくことが大事。	まつりのポスターを1階に掲示し、地域の取組みについてPRを始めている。待合室のモニターや動画でのPRも進めていきたい。		
2	H30.5	魅力	第1回 学習会	-	市民活動総合ポータルサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の登録が面倒で、途中であきらめた経緯がある。</li> <li>実際に登録しておく、月に2~3回、市内外問わず比較的若い人からボランティアしたいとメールの連絡が来るので、単発的にイベントにボランティア人材が必要な場合等はメリットがある。登録のしにくさを解消するため、Wi-Fiがある場所(例えば東淡路の区民会館)で登録のセミナー会等開催できないか。</li> </ul>	<p>少しでも登録の意向がある地域に対しては個別に支援を行う。</p> <p>NPOに比べ地域活動協議会がポータルサイトに掲載することのメリットが低い、取組の発信や豊富な助成金情報があること等を浸透させていきたい。また、区内地域活動協議会の取組を掲載することで呼び水としたい。</p>	①	様式3-取組6
3	H30.6	魅力	第1回 部会	新庄委員・中井委員・岩本委員・乗上委員・中村委員・森田委員・山口委員	コミュニティ回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的がよくわからないし、地域の方の理解が深まっているとは思えない。</li> <li>回収してくれない等、問題があった時にどこにいったいかわからない。</li> <li>コミュニティ回収でない、契約していない業者が一部マナーの悪い集め方をしているようだ。</li> <li>制度が定着すると落ち着くが、出す方もわからないから、コミュニティ回収はこういう垂れ幕がある車という周知をし直した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地振・地活の連絡会議で説明させていただいたところであるが、環境局を中心とした支援チームがあるので説明に行くことも可能である。</li> <li>回収してもらえない場合、事業者との契約なので契約違反になるので環境局に連絡とっていただきたい。</li> </ul>	①	1-1-1
4	H30.6	魅力	第1回 部会	新庄委員・中井委員・岩本委員・乗上委員・中村委員・森田委員・山口委員	地域担当制	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域担当制の活動のスタンスが変わったことを地域は認識しているのか。</li> <li>震災時の避難所開設の際、よく知っている職員でなく、また連絡待ちばかりで受け身に映り心細かった。指示がなく不安な気持ちになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域担当制として、避難所開設ができる程度に日ごろから顔見知りになり地域に入り込んでいこう、というスタンスに今年度から変更した。</li> <li>今まで地域担当制により職員が分野を問わずに入り込んでいたため、方向変更により急に変えにくいところもあるので、徐々にこのスタンスの変更が地域に浸透するようにしたい。</li> <li>地域担当制の職員は防災について今年度2回程度しか研修をしていないので、当日不安な部分があったかもしれない。</li> <li>区役所の課単位で地域を決めているので、今後は人が変わっても引き継ぎができるようにしたい。</li> </ul>	①	1-1-2

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会 会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
5	H30.5	魅力 第1回 学習会	-	区民まつり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今年、区民まつりがかわる」ということをもっとPRしてほしい。</li> <li>・グラウンドの中で、模擬店・ステージ・盆踊り等していくのか。狭いのでは。</li> <li>・自転車置き場は豊里小学校を借りたらどうか。</li> <li>・公園のトイレだけでは足りないのでは。</li> <li>・高齢者以外には子どもに楽しめるものとして目が行きがちだが、子どもとは切り離れた形で若い人も楽しめるよう、アルコールを提供したり、バンドを呼んだり、婚活パーティーしたりしては。</li> <li>・ステージについて、地域にたくさんあるダンス教室に声をかけたり、バンドを一般募集しては。</li> <li>・ステージを盛り上げて、ステージイベントを中心に、みこしの負担を減らしてほしい。</li> <li>・車の乗り入れができなかったり、公園には駐車場がないのでは。駐車場について市営住宅へ協力依頼しては。</li> <li>・そもそも実行委員の立ち上げから一般募集しては。周囲で区を盛り上げるイベントに関わりたいという声を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月9日に豊里中央公園で開催されるが、内容については5月30日に開催される実行委員会等で今後決めていく。占用申請は遊具も含む公園全体で申請しているが、グラウンドの中だけで使用することになるかは実行委員会で決定していく。</li> <li>・トイレは仮設トイレや周辺施設のトイレ等検討していく。</li> <li>・昨年パレードに参加していた団体に優先的に情報提供して今年度のステージ出演について確認しているところである。</li> <li>・PRについては、委託していないので直営でできる範囲でしていく。</li> <li>・実行委員の方々はボランティアで地域に根差しずっと携わってきており、また、今年は区民まつりが大きく変わるので、目新しいものを柔軟に取り入れる余裕がないかもしれない。</li> </ul>	①	1-2-1
	H30.7	魅力 第2回 部会	乗上委員・佐野委員・岩本委員・森田委員・中井委員・新庄委員・中村委員		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の区民まつりについて、方向性など固まっていないのではないかと、不安である。区民まつりは認知度の高いイベントであり、楽しみにしている方が多い。</li> <li>・地域の魅力発信に重要なイベントであり、これが充実すれば魅力あるまちづくりにつながる。</li> <li>・今年を糧にして来年に向けて内容を充実させ、地域が後押しできるようにして欲しい。</li> <li>・区内最大のイベントであり、もっと議論していいものをつくってきたい。</li> <li>・今までのメンバーに加え、実行委員や出演者に一般募集をかけてはどうか。それが新たな担い手につながっていくのではないのか。</li> <li>・地域に根差している人材を発掘できるチャンスであり、また、ボランティアしてくれる人を見つけられるのでは。</li> <li>・吹田市民祭りは商店街を巻き込んだり、市内2か所で行ったりといった工夫をしている。いろいろな区のいいところをアピールできるようなイベントにしないと、区の魅力が伝わらず、豊里中央公園での局地的なイベントになってしまわないか懸念する。</li> </ul>	<p>今年度から会場を変えることで、区民の方の期待が高まっている。子どもがまず楽しめることを第一に考えている。準備について心配いただいているが、着実・慎重に進めているところである。今年度の区民まつりに参加いただいて、その問題点を踏まえて、来年以降よりいいものにしていきたい。熱中症対策やステージ運営等のノウハウの蓄積も進めていく。</p>		

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会 会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
6	H30.6	魅力 第1回 部会	新庄委員・中井委員・岩本委員・乗上委員・中村委員・森田委員・山口委員	新たな担い手の発掘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献したいが、働いている世代は休日で仲間内でしか集まれないのでできることが限られる。PTA等の他の団体との連携がない。何ができるか、という議論の前にその土俵にあがっていない。できるものがやればいいとなると一握りの人がすることになり、仲間内しか連絡しなくなるため、他に情報がこない状態である。</li> <li>・豊新は保育園や介護の施設が多くある地域なので、それらの点と点の活動をつなげる役割として地活が声かけて提案や協力してもらい、バザールのイベントをした。スタートは個人で活動していたボランティア活動が、地域で広げることができた。</li> <li>・ボランティアや地域貢献をしたい、という人はいるが、実際どう参加していいかわからないという人がいる。その人たちをどう取り込んでいくか、埋もれている人をどう発掘していくか、が問題である。地域に住んでいる人以外にも広げて発掘していかないと煮詰まってしまう。一部世代交代しているが、地域の役員枠で人を回していると高齢世代が多く、地域のボランティアに若い人・新しい人を取り入れて回る仕組みを作らないといけない。</li> </ul>	<p>地域保健福祉計画の策定をきっかけに、これまで関わりの薄かった方達との繋がりができたことの事例紹介を行う。「情報が無い・時間がないがボランティアに興味がある、という人をいかに取りこむか」という課題について、運営方針に取組を記載しているところである。埋もれている人がこうしたら発掘できるのでは、という案を引き続きご提案願いたい。</p>	①	1-1-3 1-2-1 様式3-取組5
	H30.7	魅力 第2回 部会	乗上委員・佐野委員・岩本委員・森田委員・中井委員		<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に参加されている方でも、自分の役目以上の動きをすることが難しい。</li> <li>・魅力あるまちをつくるのに一番重要な要素は人材であり、新たな担い手を発掘しないと他の地区に負けていく。</li> <li>・活躍できる場所や役割を充実、PRしていくことが必要。</li> <li>・担い手の高齢化が進んでいる。新しい人や若い人に入ってもらえるようにしたい。</li> <li>・「担い手の発掘」＝「地域を担う」というイメージで重たく感じる。文言を柔らかくできないか。「地域貢献」という言葉も重たい。定義づけや具体化が進めば、行動のイメージがわかりやすくなり、参加へのハードルも下がってくるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊新地域の地域保健福祉計画策定の議論の中で、20代・30代の方にも参加いただいたという話をいただいた。「若い人は参加できない。」という思い込みを持たず、地域を何とかしたいという思いを持っている人はいるという思いでこの課題にあたっていきたい。他地域でも地域保健福祉計画の策定を進めており、この中で担い手を発掘していければと考えている。</li> <li>・他地域に対して豊新地域の事例を共有する。</li> </ul>		
7	H30.5	魅力 第1回 学習会	-	窓口サービスの業務目標達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受託者の満足度96%は高すぎるのではないかと？実際には窓口の対応がよくないと感じている人が身近にいる。</li> <li>・1階の委託業者スタッフはサービスの一環として丁寧に対応していると認識しているが、2階の福祉申請手続きをしていると区役所職員の対応がよくないように感じる。</li> </ul>	引き続き委託業者と情報連携を図り心地よいサービスに努める。	①	5-3-1 5-3-2
8	H30.6	魅力 第1回 部会	新庄委員・中井委員・岩本委員・乗上委員・中村委員・森田委員・山口委員	小学校のプール	小学校の屋上にプールが設置されているが、地震の際、水が入っていて大丈夫か、という声が地域であった。	避難所になる施設であり、大阪市としても耐震診断し補強しているため、水が入った状態で地震が起こっても大丈夫な構造になっている。	⑤	-

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会 会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
1	H30.5	教育・子育て 第1回 学習会	-	4・5歳児就学前 子育て支援事業	学校・家庭では、子どもが発達障がいのかどうか判別が難しいので、発達障がいの子どもとの接し方について、啓発・周知し、相談しやすくすれば。	今年度、発達障がいの理解やかかわり方についての講演会・講座を行ったが、参加者が極めて少なかった。講演会・講座のあり方等について検証し、区民にとって相談しやすい事業にしていく必要がある。加えて、子育てでは発達上の心配が多いが、短期間で解消するのは難しいため、伴走型支援をしていく必要があると考える。	①	2-1-1
	H30.7	教育・子育て 第1回 部会	岡本委員・長野委員・西田委員・渡邊委員		4・5歳児就学前子育て支援事業について、虐待ケース等も増えているので、対象である4・5歳児だけではなく、他の年代にも積極的に関わりを増やしていくべきだ。	児童虐待を未然に防止するためには切れ目のない子育て支援をしていく必要があると考える。行政として状況を把握する機会の少ない3歳児健診から小学校就学児健診までの4・5歳児を対象として安否確認と養育環境や子育ての困りごとの把握を行っている。引き続き、当事業として、4・5歳児に重点を置いて実施していきたい。		
2	H30.7	教育・子育て 第1回 部会	岡本委員・長野委員・西田委員・渡邊委員	こんにちは 赤ちゃん訪問事業	区民ニーズがさらに高まっているので今後も続けていくことが必要である。	継続して取組を進める。	①	2-1-1
3	H30.5	教育・子育て 第1回 学習会	-	子どもの貧困	『家に朝ごはんがないのが当たり前』という子どもがいるが、子ども食堂などを通じて、それが当たり前ではないと感じ取る場を与えてあげたい。健全な生活習慣、生活に触れる中で、みんながつながる形にもっていききたい。	健全な生活習慣につなげるため、こどもの居場所事業、登校・登園サポート事業を継続実施する。	①	2-1-1 2-1-2
4	H30.5	教育・子育て 第1回 学習会	-	子どもの居場所	居場所づくりをしているボランティア側の支援をしていくことも大切。	・現在実施している、「こどもの居場所」運営に関するアドバイザー事業により、継続的かつ無理のない運営が可能となるよう支援を継続する。	①	2-1-2
	H30.7	教育・子育て 第1回 部会	岡本委員・長野委員・西田委員・渡邊委員		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体ごとに内容や回数などには違いがあるものの、広がりが出てきているので、地域でさらに広がり根付いたらよい。</li> <li>・地域の中で子どもの居場所づくりをどう広げていくか、また行政がどのようにサポートしていくかということが今後の課題。</li> <li>・中学生勉強会に行けない子どもたち、地域の中でまだ課題のあるこどもたちの居場所がどうなっているのか。</li> <li>・子どもの居場所において、中学生・高校生・大学生がお互いに関わることで、子どもの自尊心が高まるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに運営が始まっている居場所については、地域での根付きをめざし、多様な手法により周知を図る。</li> <li>・居場所の開設者の意向に沿った必要な支援ができるよう、アドバイザー契約の委託事業者と連携しながら事業を進めていく。</li> <li>・こどもの居場所について、区内全地域での立ち上げに向けて支援を進める。</li> <li>・担い手についても、地域の実情に合った体制が構築できるよう支援方法を検討する。</li> </ul>		

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会 会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
5	H30.7	教育・子育て 第1回 部会	友實委員・建部委員・宮住委員	・自助・共助を担う地域力のあるまち ・「子育て」「共育」のまち	定期的に地域でそれぞれの地域の特徴に合ったコミュニティづくりのアイデア（例えば地域における図書館・自習室・食堂などの機能）を出していくことが大事。	各地域での居場所設置については、地域の特色・意向が画一的なものではないため、地域ニーズを踏まえて支援を行う。（「こどもと地域を結ぶ居場所」づくり支援事業）	①	2-1-2
6	H30.5	教育・子育て 第1回 学習会	-	中学生勉強会	中学生からでは遅いので小学校の高学年から参加できる機会がある方がいいのでは。	・「小学校の高学年からの参加」：予算等があるので確約はできないが、ご意見や課題を課内で共有し検討したい。 ・「参加人数」：毎年この時期は、新しい生徒の受け入れを始める時期で、これからケースワーカーなどを通じて参加を促したり、1階のくらしのみり相談窓口でもアウトリーチをしたりしていき、今後、人数は増えていく見込み。 ・「グループ指導」：自尊感情や自己肯定感が低く、学習意欲の低い生徒に対しては丁寧な寄り添いや個々のレベルに合わせた学習支援をマンツーマンで行う必要があると考えている。	①	2-2-1
7	H30.5	教育・子育て 第1回 学習会	-	絵本読み聞かせ事業	読み聞かせの実施だけでなく、読み聞かせのボランティアの養成もしている。切れ目なくひろげて、取り組んでいただいているのでありがたい。	より効果的な取組となるよう、効果検証を行いながら事業を進める。	①	2-2-1
8	H30.7	教育・子育て 第1回 部会	岡本委員・長野委員・西田委員・渡邊委員	自尊感情の向上	絵本の読み聞かせ事業、ゲストティーチャー派遣事業、体験型食育推進事業など、今までの取組みが繋がって少しずつ発展していったのがよい。	より効果的な取組となるよう、効果検証を行いながら事業を進める。	①	2-2-1
9	H30.7	教育・子育て 第1回 部会	岡本委員・長野委員・西田委員・渡邊委員	「子育て」「共育」のまち	要保護児童との関わりや非行の防止など、課題のある子どもたちと関わっていけるような事業がもっとある方がいい。	課題のある保護者の元で育つ子どもたちが抱える問題は画一的なものではなく、各々の状況に応じた支援・関わりが必要である。 育児不安は児童虐待の要因の一つであるという観点から、支援を要するこどもとその保護者に対し、子育てに関する情報提供を早期段階で行い、基本的生活習慣の定着等について相談に応じるなど、保護者の子育てに対する不安を解消する支援を継続的に行う。	⑤	-

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
1	H30.7	健康 福祉	第2回 部会	小山議長・青山 委員・大谷委員・ 近藤委員・吉田 委員	複合課題世帯	複合課題世帯について、区の取り組みが進んでいるのは感じるが、依然として複合課題の世帯が多く、医療支援につなげるのに時間がかかる。特に精神疾患の方の対応は時間を要するが、その対応を行う区役所の職員数が絶対的に少ない。今後より充実するように検討していただきたい。	複合課題世帯について、しっかりケースに寄り添い支援をしていかなければならない。マンパワーを充実させていくことで、複合課題世帯の方がよりよい支援に繋がっていくと考えられるため、体制の充実について検討していく。	②	3-1-1
2	H30.7	健康 福祉	第2回 部会	小山議長・青山 委員・大谷委員・ 近藤委員・吉田 委員	新しい百歳体操	百歳体操について、本年度4ヶ所で積極的にいるんな機関がかかわって、より充実した百歳体操の実践をしていくということだが、他の地域にもその情報を提供し学びの機会を提供してもらえたらありがたい。	百歳体操について、全地域のサポーター交流会で周知した。また、来年年明けに4ヶ所の活動内容について他地域のサポーターに対して報告会等を検討している。	①	3-2-1
3	H30.6	健康 福祉	第1回 部会	青山委員・大谷 委員・小山委員・ 近藤委員・西田 委員	要支援者対策	・先日の震災時の対応に要支援者のリストが活かされたか検証し、今後の課題として対応策を検討していただきたい。	・今回の震災の対応の課題として認識しており、今後対応策を検討していく。	①	3-1-3 4-1-2
4	H30.6	健康 福祉	第1回 部会	青山委員・大谷 委員・小山委員・ 近藤委員・西田 委員	新しい百歳体操	・現在実施している百歳体操も良い取組であるが、新しい百歳体操はさらにすばらしい取組であると思うので積極的に進めてもらいたい。 ・この取組は、介護予防・認知症予防という観点からも有用な取組である。 ・運営場所の狭さや段差の存在などハード面の問題がある。また、専門的な資格を持たないボランティアで実施しているので、体の不自由な方が来られた時などに介助に戸惑うことが想定されるため、例えば地域包括支援センターの職員などの専門家のサポートがあればありがたい。 ・サポーター養成講座に、体操の手技・手法だけでなく、安全に継続していけるように運営のノウハウについての内容も取り入れてほしい。 ・取組を進めていくにあたり、保険加入も検討するべきではないか。 ・資料について、例えば障がい認定を受けている人が多いことが東淀川区の弱みともとれるような表現がされていたが、むしろ制度が浸透しているという点で強みであるという見方もできるため、表現を変更した方がいいのではないかと。	・安全、安心に実施するために専門家によるサポート体制やハード面の問題について、地域の方の力を頂きながら、地域事情を踏まえながら取り組んでまいりたい。 ・この取組を進めるうえで、保険等、運営上のリスク管理について考えていきたい。 ・資料について、だれが見てもわかりやすい表現に変更していきたい。	①	3-2-1
5	H30.7	健康 福祉	第2回 部会	小山議長・青山 委員・大谷委員・ 近藤委員・吉田 委員	【防災】災害時の職員 体制・防災マップ	6月の地震の経験を生かすために、災害時の区役所の職員の参集状況を振り返って、今後は参集できた職員が区役所として危険な地域の場所等の情報がアナウンスできるような体制づくりが必要ではないかと。	市本部・区本部それぞれの情報発信の役割等について整理し、区民への情報発信方法を確立する。	②	—

これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会	会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
1	H30.7	安全・ 安心	第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】 自助	災害時は自己の責任により自らを災害から守る必要があることを認識し、自助の取組をもう一度周知徹底することが必要	大阪北部地震を踏まえて、あらゆる世代の区民に対して、「自分の命は自分で守る」という自助の意識向上を図る。	①	4-1-1
2	H30.7	安全・ 安心	第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】 避難所・開設運営	・避難所が開設されたが、避難所がどこかわかってない人や開設されたことを知らない人が多い。地域住民主体の開設と運営について、日頃から事前学習のスケジュールを想定した訓練が必要である。 ・災害時にも避難所開設のアナウンスなど、青パトを走らせられると良かった。	避難所開設に関して多様な情報発信を検討していく。	①	4-1-1
3	H30.7	安全・ 安心	第2回 部会	村富委員・水川 委員・山下委員・ 行澤委員	【防災】 地域防災役員の参集や 地域間の連絡体制	いつも訓練に来ている特定の人だけでなくそれ以外の人にも連絡できるようにし、協力できるような関係づくりが必要。	地域で実施される防災訓練について周知し、訓練参加者を広げ、避難所や避難行動に関する意識向上を図る。	①	4-1-1
4	H30.7	安全・ 安心	第2回 部会	村富委員・水川 委員・山下委員・ 行澤委員	【防災】通信機器	LINE等災害時に有効なものを活用するために、携帯電話会社等にも協力してもらい、高齢者も連絡手段として利用できるようにすることが必要。	災害時の連絡手段については、自助の取り組みとして日頃から考えるよう、周知・啓発を行う。	①	4-1-1
5	H30.7	安全・ 安心	第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】通信機器	通信について電話は制限がかかり、無線も活用できなかったが、ラインやNTT安否メール等災害時に有効なものを活用する方向性作りが必要である。紙に書いて掲示板に貼るのが効果的に周知できてアナログも有効であった。	区本部と地域災害対策本部とが確実に連絡を取れる手段の確保について検討していく。	①	4-1-2
6	H30.7	安全・ 安心	第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】 地域防災役員の参集や 地域間の連絡体制	防災リーダーが不在、町会長も仕事中で、連合単位だけでは難しかった。区役所と地域が連携して体制整備する必要がある。	地域災害対策本部の設置基準や手順についての基本的な考え方を整理し、各地域において学習会等を実施して体制を整備する。	①	4-1-2
7	H30.7	安全・ 安心	第2回 部会	村富委員・水川 委員・山下委員・ 行澤委員	【防災】 地域防災役員の参集や 地域間の連絡体制・地 域での安否確認	避難所開設運営、地域での安否確認、地域での参集、地域間の連絡体制について災害時に有効に機能させるには、町会単位の訓練や班単位の連絡体制も必要である。また、安否確認をするにあたり、きめ細かなルール作りが必要である。	災害初動の対応訓練や学習会など実施し、災害発生時の地域内の連絡体制の構築を支援する。また、要配慮者の安否確認については、危機管理室や福祉局と課題を共有し、地域における安否確認についての基本的な考え方を整理する。	①	4-1-2
8	H30.7	安全・ 安心	第2回 部会	堤下委員・高田 委員・和田(浩) 委員・和田(正) 委員	【防災】 避難所・開設運営	・発災当日、避難所開設がうまくいかなかったため、地域にいる人誰でも災害時の役割を把握でき動けるよう、マニュアルを整備する必要がある。 ・地域ですみやかに避難所開設できるように、避難所開設・解除について一定判断基準を設けて、実効性のあるマニュアルを今後整備していくべき。	地域災害対策本部の設置基準や手順についての基本的な考え方を整理し、地域と連携を取って各地域の防災計画に反映する。また、避難所の開設や閉鎖に関する基本的な考え方を整理し、避難所開設の対応方針を確立し、防災学習会等での周知及び訓練を実施する。	①	4-1-2

## これまでの意見へのフィードバック

①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定 ③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可 ⑤その他

番号	年月	部会 会議名	委員名	カテゴリー	外部評価意見	対応方針	分類	運営方針 対応箇所
9	H30.7	安全・ 安心 第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】 地域での安否確認	・一部民生委員による安否確認があったが、気がついた人が動かないと声かけできていない。連絡体制が整わないと安否確認が困難であるため、区役所と地域とで連絡手段も含めてさらに深い対応というのが望まれる ・自助がまず優先されて、それから共助という流れで、福祉施設の職員による協力もあったが、人数が少ない場合は対応できないところが出てくる。	災害初動の対応訓練や学習会など実施し、災害発生時の地域内の連絡体制の構築を支援する。	①	4-1-2
10	H30.7	安全・ 安心 第2回 部会	堤下委員・高田 委員・和田(浩) 委員・和田(正) 委員	【防災】 地域での安否確認	区役所で安否確認して集計する項目を定めてもらい、その項目に従い、地域実情に応じた方法で安否確認をして役所に情報提供できれば良い。	危機管理室や福祉局と課題を共有し、地域における安否確認についての基本的な考え方を整理する。	①	4-1-2
11	H30.7	安全・ 安心 第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】児童生徒の 安全確保	学校と地域と区役所との連携を密にする必要がある。また、災害発生後に児童を家に帰すという対応は、二次災害の観点から危険であったのでは。	危機管理室や教育委員会と連携し、基本的な考え方を整理する。	①	—
12	H30.7	安全・ 安心 第1回 部会	村富委員・水川 委員・高田委員・ 森脇委員・山下 委員・和田(正) 委員	【防災】 帰宅困難者対策	阪急沿線は今回の地震で帰宅困難者が多かったため、帰宅困難者対策はJRの新大阪だけでなく阪急沿線も必要では。	他駅については帰宅困難者対策で示される一斉帰宅の抑制などの基本方針に則って啓発を進めていく。	①	—
13	H30.7	安全・ 安心 第2回 部会	村富委員・水川 委員・山下委員・ 行澤委員	【防災】 地域防災役員の参集や 地域間の連絡体制	防災リーダーを知らない方が多いので、周知が必要。	広報紙で防災特集を掲載して広く周知するとともに、防災リーダーの意向に基づき、活躍の場につなぐ取り組みを実施する。	①	—